【福島大学むらの大学アーカイブ 08】【南相馬 Chapter 3】

人とのつながりを大切にする、地域に根差した魚屋さん

谷地魚店店主　谷地茂一さん

インタビュー日　：2023 年 9 月 27 日、11 月 14 日

インタビュー場所：両日ともに谷地魚店

聞き手：金田英治、齋藤葵、原ゆかり、深澤真由、前川直哉

プロフィール

1947（昭和 22）年 12 月 2 日生まれ(インタビュー時 75 歳)。小高小、小高中、双葉高校を卒業後、東京・代々木の服部栄養専門学校で 1 年間学ぶ。その後、浪江町にあった浪江スーパーに 3 年勤めた後に実家の谷地魚店を継ぐ。震災後、移動販売から営業を再開し、現在では小高での営業を再開している。趣味は映画鑑賞と写真撮影。

１．震災以前の小高

★谷地さんのルーツ

－ご出身はどちらですか。

谷地：小高。新田下駄屋さんの裏の借家で生まれて、1950（昭和 25）年、俺が 3 歳の時に父と母がここの家を買って引っ越してきました。私の妹のみち子が、1951（昭和 26）年生まれなんですけど、ここで生まれたそうです。

谷地っていう名字の家は、鹿島と原町にあります。小高には 3 軒しかなくて、うち 1 軒は東京へ引っ越したから、今は 2 軒です。わりと鹿島とか原町とかにも多い。原町にある谷地家と、鹿島にある谷地家は全く縁がありません。うちは原町のほう。原町区の海岸線の一番北端が小沢っていう所で、そこから私のじいちゃんが小高に来ました。

－谷地魚店について教えてください。

谷地：1951（昭和 26）年に父と母がここで魚屋を開業しました。俺、妹に「健康だったら（魚屋を）78 歳になったら辞める予定だ」って言ったら、「じゃ、谷地魚店の歴史も 75 年で終わりなんだ」って（言われました）。

俺の息子が今東京で板前やっていて、本当は震災の年（2011 年）の 7 月に東京から引っ越して来る予定だった。けど、3 月に地震があって、津波があって、原発が爆発した。当時息子には 1 歳の子供がいて。小さい子ほどセシウムを摂取しやすい。（息子が）4 代目を継いで、子供を犠牲にするんであれば、もう東京にそのままいたほうがいいよって（俺は）言ったんです。けどこのあいだ、ここで母の法事をやった時に、息子が、「僕は一生東京にいる気はない」と。だからいつの日にか居酒屋くらいはできるかなって。

だからそういう将来に向けての俺の考えが少し変わりました。今までは映画見たり、やりたいことやってたけど。昨日もフォーラム（福島市の映画館）に行って来たんですけど。映画は今でも 1 年に 10 本ぐらいは劇場で見ています。招待券で。

★谷地さんの趣味

－映画がお好きなんですね。

谷地：浪江中央劇場って、今ではとっくに廃館になっちゃって形もないんですけど、そこで見た『めぐり逢い』っていうアメリカ映画があって、本当にいい映画。

ハッピーエンドで終わる映画なの。ラストシーンは涙ぼろぼろで。初めて自分で働いて得た金で見た映画が素晴らしかったので、それで映画にはまっちゃったの。

俺、その時はたちか 21 歳くらいだったから、大人の男女に憧れがあったの。もう今は大人なんてとっくに通り過ぎて、じじいの世界に入ってるけど。それから今までスクリーンで見たのが、大体 1,400 本ぐらいかな。

映画の話ついでに言うと、字幕って今、下に出るでしょう。元は右に出たの。座席が 3 列あって、右の

列に座っちゃうと字幕しか読んでない。で、左に座って、こっち（画面）を読みながら字幕も読む。そのころ（1967 年ごろ）東京電力の（福島第一）原発が建築始まったばっかりで、アメリカの技師がたくさん浪江にいた。土曜の夜、ナイトショーにアメリカ人の家族とか、（洋画を見に）が一っと入ってくるの。俺も、洋画好きだから。そうすると、真ん中にはアメリカ人。で、日本人は端に、ずっと遠慮して。アメリカ人はせりふを聞いて笑う。俺たちはその後、字幕を読んで笑う。時差が（あった）。で、笑ってた。アメリカ人は「オー、ノー」とかって言ってるんだ。何語ってるんだ、このとかって。楽しかったよ。そういう映画の、あなた方には分からないよね。

昭和 40（1965）年ころって『めぐり逢い』もあったし、『パリのめぐり逢い』、『シェルブールの雨傘』、『男と女』、『幸せはパリで』とか、あとは『サウンド・オブ・ミュージック』もあったし、『卒業』もあった。これは余談だな。

ーその頃はどんなお仕事をされていたんですか？

谷地：その頃は魚屋修行で隣町にあった浪江スーパーに通って 3 年働いていました。その頃は魚の切り方をまだ覚えていなかったので。

★谷地魚店の成り立ち

ー魚屋はいつから始められたのですか？

谷地：じいちゃんが戦争前から。前に荷台がある運搬車っていう頑丈な自転車あったんですけど、それに魚箱を 3 つか 4 つ積んで、今の言葉で言えば移動販売をやってたの。

ところが酒好きなじいさまは、途中で酒出されると飲んで、酔うと魚も何も要らなくなって、この自転車にある魚は、ネコに食われようが何しようが関係ない。酒の方が好き。どうにもなんない人だけど、お金もうけはうまい人だった。あのころは銀行なんてなかったから、札を自分でアイロンで伸ばして、自分で帯封してタンスにしまってたって、あとで母に聞かされた。

それで、1951（昭和 26）年になって、戦後一段落したころに父と母が店舗を構えて。あのころは、戦争から生き残った人たちがどんどん日本に引き揚げてきて、人がばっと増えた。戦後 6 年目だったから、お金がない農家の人たちは、1 年間魚屋にツケで来るわけ。それで、秋に収穫した米でツケを払ってた。だから、どこの魚屋さんでも、どこの八百屋さんでも、肉屋さんでも、人の背丈くらいある大きな米びつを 4 本も 5 本も持ってたの。売れる店ほど米びつの数が多い。親たちは市場に現金で払うから、貯金なんてなかったの。けどその分、米買う必要がなかった。

そのあと、昭和 40 年代ころっていうのは、この地方は産業って機織り工場の他はあまりなくて。正月とお盆、田植えのころと稲刈りのころだけは、お父さんがお家にいるけど、その他は出稼ぎが多かった。1964（昭和 39）年の東京オリンピックの前には、東京にオリンピックの設備とか高速道路とかの建設でたくさん人手が必要なわけで、東京方面へみんな出稼ぎに行ってた。

★活発になってきた小高の経済

ーなるほど。

谷地：ところが、東京電力の原発の建設がこの時期から始まったと思うんだ。男たちが出稼ぎをやめて原発で働くようになって、高い月給が入るわけ。今まで田起こしっつって田んぼの土を起こすのを、牛とか馬の後ろに鋤(すき)っていうのを付けて、べことか馬の尻を棒でたたきながら働かせていたのを、現金が入るようになって農機具屋さんがあちこちにできて、耕運機が売れるようになったの。

　そうすると、出稼ぎで耕運機を買っていた人たちが、東京電力に朝、母ちゃんから弁当持たせられて働いて帰ってくれば、出稼ぎの時よりお金もらえるようになって、みんな出稼ぎ辞めて東京電力に人夫として働くようになって、現金収入が入って、それからここら辺にスーパーできたりして、商業も潤う、あとは飲み屋も潤う。家族全員が笑顔になる。人口も増える。本当に東電のおかげでみんな良くなったの。

ー地域の経済が回っていたということですね。

谷地：そう。で、大熊町とか双葉町とか、本当に辺ぴなちっこい町が、原発のおかげでどんどん膨らんでいった。

ー恩恵は少なからずあったと。

谷地：そうそう。原発が爆発する前は、東電あってのこの辺だよな。だから東電のこと悪く言う人なんか今でもいないと思う。今でも東電に働いている人が家族や知り合いにいる人は、絶対悪いこと言わないから。俺のおいっ子も働いているから、やっぱりそういうふうになると、東京電力のことを悪くは言えない。

　それに人間って、あなた方もこれから経験していくけど、人の悪口とか言ってたって、自分が惨めになるだけだから。疲れるし。何事にも感謝して明るく過ごしたほうが、自分も得だから。

　ありがたいと思う気持ちはありがたいと思えばいいし。ただ、俺たちはここに帰ってくる時に、避難地（避難先）からここ（小高）に来る時には、体のどこかにトゲを刺したまま来てるんだって言ったの。そうしたらマスコミの人が、「谷地さん、トゲって何ですか」って。それはセシウムに対する恐怖だよね。

★代々木で過ごした１年間

ーなるほど。話を戻しますが、昭和 26 年にお父さんが魚屋を始められて、谷地さんはいつぐらいからお仕事をお手伝いなさっていたんですか。

谷地：俺は高校生の頃からかなあ。学校は小高小、小高中。高校は双葉高校。その後、代々木の服部栄養専門学校の調理師科に１年だけ行っていた。

ー服部栄養専門学校の時には、代々木の辺りに住んでおられたんですか？

谷地：ううん。相模大野。小田急線で通ってた。というのも、戦時中に相模原から小高に子供３人連れて疎開してた人がいて、うちのばあちゃんと縁続きだったの。それで、ばあちゃんがおらいさ（自分の家に）来いって言って。ここ魚屋だし。その１年間だか２年間、ここで面倒見たことで、「谷地さんには恩ある

から」って言って。その人たちは相模原で建築会社やってるの、大工さん。職人が 20 人くらいいて、アパートも 4 つも 5 つもある人で。そこに住まわしてもらって、3 食付き。たまに小遣いもらったりして。
　父と母は、なけなしのお金をはたいて、俺を東京にやってくれたの。それを終わって 1 年で帰ってきて、浪江の浪江スーパーっていうところで 3 年間働いて、その後はここに帰ってきて一途に働いていました。

ーそうなんですね。谷地さん、ご兄弟は？
谷地：俺入れて 5 人。俺が長男です。あと妹 3 人、弟 1 人。俺はもう物心ついた頃から何の考えもなく、俺はお店を継ぐもんだと思ってた。

ー代々木に通ってたころは昭和 40 年代だから、日本がどんどん元気になっていった時期ですよね。
谷地：そうそう。ただ印象深いのはベトナム戦争。相模大野には米軍病院があったんです。あと、厚木基地あるでしょう。だから米軍のヘリの音をずっと毎日聞いてたから、今でもヘリコプターとか飛行機の音聞くと見上げる。

★谷地さんの家族構成

ー家族構成についてもちょっと伺いたいのですが、谷地さんのご両親は、いつ頃までお店を一緒にやってらしたんですか。
谷地：（明確に覚えてはいないが、）1993～94（平成 5～6）年ころかな、やってたの。ずっと親子 2 代でやってる感じだった。
　父から、「俺らはやめるからお前ら 2 人（谷地さんご夫婦）でやったらいいべ」って言われて、財布と貯金通帳渡されたんだけど、何歳の時だかもう覚えていない。
　（谷地さんが）結婚したのは 30 歳の時。子どもは息子 1 人。

ー息子 1 人。息子さんは何年生まれですか。
谷地：1977（昭和 52）年 3 月の早生まれ。

★震災以前の小高の商業

ー震災・原発事故以前の暮らしについて伺います。20 代半ばぐらいで小高に戻ってきて、小高の景気が良くなっていく実感はありましたか。
谷地：あった、あった。小高って駅前からずっと向こうで Y 字路になって、原町に行くほうと浪江に行くほうと分かれるけど、そこまでこの駅通りを挟んで両側にびちっとお店あったの、全部。今は何軒かだけど。全部あって、それで飲み屋さんもたくさんあったし。
　小高町って、皆さん勉強したかもしれないけど、もともと機織り工場があったのよ。高級な羽二重、絹製品ね。それをこの小高駅からアメリカに輸出してた。中国から安い絹織物が入ってくるようになって廃れちゃって。ほら、（小高）ワーカーズベースの（和田）智行君のお父さんが 3 年前までやってたんです。

その人が、昭和時代に小高で産業が繁栄したころの機織り工場の、最後までやってた人。中国から安い絹織物が入ってくるようになって、日本の機織り、絹製品が日本各地で少なくなっていって。

ーなるほど。でも、その商店街すごいですね。魚屋さんもあるし、八百屋さんもあれば、飲み屋さんみたいな食べる所もあって。
谷地：魚屋だけで 16 軒あったの。

ー16 軒！　小高に？
谷地：うん。震災前、原発が爆発した時にも 6 軒あった。あと小高資本のスーパーが 4 軒あって、ほかの市町村から来たスーパーが 2 軒あった。その中にみんな魚屋さんあったから、震災前、ここの人口が 1 万 2,800 人だったんですけど、魚を扱う店が 12 軒あった。魚屋が 6 軒とスーパー6 軒あった。

ーすごいですね。
谷地：だからわたしら、これ裏通りのちっこい店だったから、1 日（客が）10 人くらい来れば。で、それ以外に暮らしのために、仕出しっつって法事とか結婚式とか、慶び事も仏事もおうちでやってた時代があって、昔。今でいう折り箱、パック料理をやってた。
　あとはまちなかに、旅館さんが 6 軒くらいあって、そこに泊りがけで来る人の刺し身とか。あと昭和時代は旅館さん、みんな大広間持ってて、そこで日曜のたびに法事やったり、あとは結婚式やったり、その時の料理をうちから取ってもらってた。そのうち今度、旅館でやるのが嫌だっつって、大きな家の人たちは魚屋から仕出し料理を、瀬戸物に盛り付けたお膳料理を取って、それもうちでばんばん売れてた時代があって。だからお店に来るお客さんは少なかったけど、その他の仕出しの部分で結構盛り上がってやってた。

ーじゃあ、魚を売るだけでなく料理、調理もなさってた。
谷地：そうそう。そのおうちでやるのもだんだん廃れてきて、そのころは冠婚葬祭センターができた。そこに納めさせてもらって。

２．震災当時の様子

★3 月 11 日に何が起きたのか

谷地：地震の日（2011 年 3 月 11 日）も、次の日に 2,500 円のオードブルが 20 台とか（注文が入っていた）。3 月 12 日がオードブルで、3 月 13 日には 1 人前 4,000 円のお膳が 150 人頼まれてて。3 月 11 日の朝に注文入ってご飯食べたら、その注文になった仕出しの分を妻（美智子さん）に魚市場と、あと浪江にある八百屋さんに仕入れに行ってもらった。
　俺は家の居間でお茶飲みしてたんですけど、突然がらがらがらがらがらがらって。その時、お茶飲みに来てた妻の友達が居間で座って、テーブルに置いた携帯がビーッと鳴り始まった。うわ、何だ何だなんて言っ

ているうち、仏壇の線香立てがぼーんと飛んで出てきて、あとその上が神棚だったんですけど、榊（さかき）入ったつぼも、このまま落っこちてきたの。それで俺は外に出たら、女友達、自分でいれたコーヒーすすり始めたの。「こばか、この。お前、死ぬど」っつったっけ、そうしたら大慌てで家から飛び出て来て。揺れながら、その辺につかまっていた。大揺れ。

この人（美智子さん）は 6 号線走って小高に帰ってきたら、途中で何だと思うくらい車揺れたんだって。したら目の前のおうちの屋根瓦がざらざらざらざら落ちてきて、6 号線にひび入ってきて。判断よく帰ってきたから事なきを得たんですけど、あのままあそこにいたら、あのあとあそこ津波ですごかったから、今ころは 13 回忌だったべな。

ーそうなんですね。

谷地：地震で、その前の日か、前の前の日だかに葬祭会館に刺し身の瀬戸皿 150 人分、調理場の後ろにある棚にあって、この棚の戸が地震で勝手に開いたの。だからここに重ねて置いた 150 枚の皿が、ざらざらざらざら、ばっちゃんばっちゃんばっちゃんばっちゃん落ちるの。150 枚のうち残ったの 60 枚。あと 90 枚全壊。

で、家の物は倒れる。俺の部屋にあったスチール製の本棚が 5 本全部倒れた。次の日、そのままにして逃げて。（その後）一時帰宅で帰ったら、そこが、ネズミの巣になってた。いろんな本、結構もったいないのあったんですけど。ネズミのションベン臭くて、7 割か 8 割くらい捨てました。

ーその時息子さんは東京ですか。

谷地：東京。

ー 3 月 11 日、息子さんとは連絡ついたんですか。

谷地：しばらくしてからでねえかな。大混線だったから。皆、右往左往、大騒動。逃げろ、逃げろって。電話かけるなんてなかった。

ーなるほど。震災の時、ここは停電しました？

谷地：していない。この通りから向こうは停電したけど、こっちは停電しなかった。水も大丈夫。

ーテレビは。

谷地：普通に見てた、ずっと。だから原発爆発した映像も、ちゃんと見てた。

★小高を襲った津波

ー3 月 11 日に津波が国道 6 号線の辺りまで来てるっていうのは、ご存じでしたか？

谷地：俺たちは分からなかったの。ただ、俺、地震と同時に、ここからぽんと外に出たのよ。それで靴履かねえで出ちゃったの。ここにいた妻の友達は、靴履いてゆっくり出てきたの。で、地震収まったと同時に、靴履きに俺戻ってきたのよ。そしたら、防災無線で「ただいま津波警報が発令されました。避難してください」って言ったの。

店先の駐車場に、そこの葬祭会館の社長さんとそのお母さんが立っていて。あの日、小高中学校の卒業式で、中学生がいたから、その中学生の友達5〜6人で、2階でたむろして何かしてたの、みんな外に出てきたんだよ。地震終わってからだよ。で、そのうちの1人のK君は、Sさんから自転車借りて、海側の自宅まで向かって行って、その子が行方不明なの。自転車も。今でも行方不明で、去年だかおととし、K君のお母さんと、ここのSさんのお母さんがショッピングセンターで会って、K君のお母さんが「自転車まだ返してねえな」って言ったらSさんに「いいから」って言われて泣いてたって。この人（美智子さん）聞いてきて言ってた。だからそういうことも含めて。

で、「津波警報が出たけど」って俺言ったら、ここの社長がぽんと車に乗って、岡田の踏切から鉄道沿いに北に向かって、前川の土手を葬祭会館心清苑に向かって行ったの。

その時に、前川に海の方から波が来てたんだって、すぐに。社長が職員たちに「津波来るから逃げろ」って言ったんだって。その前に地震収まった時に、男の従業員たちが女の従業員たちに、「心配だべからうちに帰れ」って帰したんだって。そこの踏切でバックミラー見たら、黒いものがすでに映ってたんだって、バックミラーに。あと立体交差登った人は、やっぱバックミラーに黒い大きな塊が映っていた。それで男の従業員が「どうする、どうする」って言った時に、もう津波が迫ってきて、社長とお母さんはそれぞれの車で、この前川の堤防を通って、ダイユーエイトのところまで来た時に流された。

で、お母さんの車と社長の車も流されて。でも社長、自力で車から出て、お母さんのところまで歩いて追いついて、津波の中を。それで助けて、母親を抱えてダイユーエイトの柱につかまって、津波でがっぽんがっぽんするところを、母親を絶対離さないで。だからお母さんがその後、水飲んだかもしれないけども、「私は長男に抱き抱えられて命助けられた」って言ってた。

ーすごいですね。

谷地：その時に、この男の従業員たちは、あとから聞いた話ですけど、エアコンの室外機の上から、建物の屋根に上がった。ところが、携帯何ぼかけても通じなくて、従業員行方不明になってた。そうしたらその時、屋根の上で寒空の中で震えてたってあとで聞きました。

それで次の日、原発爆発しそうだっていうことで、全員、みんな逃げた。1カ月後に入ってもいいってなって、その間に自衛隊と消防と警察が行方不明の人たちを見つけて下さってて。相馬東高校（当時。現・相馬総合高校）の体育館が遺体安置所になってたそうです。

—そうだったんですね。

谷地：1カ月後に、避難所から一時帰宅で来て、その時俺たち頭に（キャップを被る）。それで手袋と、あと足にも靴の上からやらせられて（カバーされて）、いちいちピッピと測られて。でもそれはそれだから、そうやらないといけないことだったから。っていうことは、あれをやることで、自分たちの体に入ってるセシウムが分かるわけで、だからそれはそれでしょうがないよね。

ーなるほど…。

谷地：あんまり深く考えないんだ、俺。深く考えても、浅く考えても結果はだいたい同じだから。生きてるんだから。

★震災翌日から始まった、小高以外への避難

ー震災翌日の 3 月 12 日に同じ南相馬市の鹿島区へ避難なさったんですよね。避難は防災無線か何かで連絡があったんですか。

谷地：違う、違う。小高工業高校の校庭に逃げたのよ。俺と、この人（美智子さん）と、あと大井にいる妹と。この人（美智子さん）の車に乗せられて。ただ大井の妹は、その当時、小高保育園で働いていたから区役所職員なわけよ。それで妹は炊き出しに駆り出されて。

ーなるほど。

谷地：3 月 12 日午前中、ここの店の瀬戸物とか片付けてる時に、また余震で揺れて、「津波警報が発令されました。避難してください」って言われて、また小高工業に行ったのよ。

そしたらうちの近所の人で、震災前にここで仕出しがある時、アルバイトで来てくれたお母さんがいて、「うちの娘、請戸に嫁に行ってるんだけど、今日請戸で 7 時ころからサイレン鳴らして、みんな避難してるんだ」って言うから、「なして」って聞くと、東京電力（福島第一原発が）津波かぶって、原発爆発するかもしれないからって。大熊も双葉も浪江も避難始まっただすけって。それで「谷地さん、私らも逃げなきゃなんねえ」とかって言われて、「逃げるってどこさ」っつったら、取りあえず 20 キロの外。20 キロの外で、南は駄目だべ。東、駄目だべ、海だから。北と西しかない。20 キロっつうと、川俣、福島。北は鹿島、相馬。

で、鹿島に母が入所してた特別養護老人ホームがあって、そこに妹が電話して「行ってもいいか」って聞いたら「いい」って言われて。じゃ、行くかっつって。近くにいた知ってる人たちに口コミで言って、それから逃げ始まったの。だからみんないっぱい校庭にいたんですけど、ぞろぞろぞろぞろ避難始めたの。

その出始まったの見て、何だ、何だってなったから、こんなわけなんだすけって言ったら、じゃ、俺たちも逃げなきゃなんねえっていって、それぞれ皆逃げ始まって。で、鹿島まで 40 分で行ったのよ。その頃は、市からの公式な連絡はまだなかった。

ーなるほど。

谷地：市が、防災無線で言い始まったら（その後に避難する場合は）鹿島まで行くのに 5 時間かかったってあとから来た人達が言ってた。

ーそうですよね。大渋滞になったでしょうから。

谷地：大渋滞。そうしたら妹は、それで私らも逃げなきゃなんねえってなって、作業中だったんですけど、あなた達も逃げろって言われて、それからおらのいるところ（避難先の鹿島の老人ホーム）に来たんだけど、5 時間かかったって。

３．震災後、避難先での生活

★避難先の特別養護老人ホームで

谷地：老人ホームに避難したから体育館にも入らなくて済んだし。俺、心臓悪いのよ。心房細動っていって、1 分間に 140 発打つようになるのよ、心配すると。気弱いのよ。真っ赤になるから。ほんで、そういうふうになると、今度顔が真っ青で、あと視界がぱーんとなくなって全部真っ白になっちゃう。それもあるから、体育館に（避難するのは）ちょっと無理だと思ってた、内心ね。駄目だとは言わなかったけど、そういうふうになる運命だったら、そこで我慢するしかなかったと思ったんだけど。

で、特老に入れてもらって、そうしたら最初は俺たちだけだったんだけど、どんどん来るのよ。ほんで後は何人も来るようになって、ここでみんな職員さんも大変だし、おばあちゃんたちも増えてきたから何かして手伝うべっつって、血圧測ったり、そこの特老で持ってる畑の作物取っていろいろやったり、切ってみたり、煮たり、あと何かやって、朝昼晩ごちそうになっていたのよ。ありがたかったなあ、あの時は。

ーじゃあ、その鹿島の特別養護老人ホームは、臨時の避難所的な感じになったんですね。

谷地：そんで、この人（美智子さん）の車に載ってた魚はみんなそこに置いたの。だからこんな立派なエビ 200 尾とか。そして、その俺たちの避難した 3 日後に、老人ホームに入所している 100 歳のおばあちゃんいて、お祝い会やりました。そのエビで、エビの天ぷらをつくったら入所者全員大喜びでした。

ハマチ、2 本だか 3 本あったのを切り身にして、鹿島に避難してた梅の香さん（特別養護老人ホーム）にハマチ 50 切れだか差し入れした。喜ばれた。

ーその施設に避難というか、そこでお手伝いもしながら、どのくらいまでいたんですか。

谷地：3 月 12 日から 20 日まで 8 日間。その時に、浪江の妹が横浜の妹に電話した。横浜の妹が栃木県の那須町に別荘を持ってて、「そこ今空いてるから来たら」って言われて、こっちからばあちゃんも連れて 8 人で（避難した）。

浪江の妹の友達夫婦、浪江の妹夫婦、俺たち夫婦、ばあちゃんと私の妹と 8 人で車 4 台に分乗して、鹿島から 113 号を通って福島に行ったんだ。で、福島西（インターチェンジ）から高速に乗りました。その時に浪江の妹夫婦の友達夫婦が、「私の車にナビ付いてるから私が先導車やります」って。そんで、「栃木県の黒磯で下りるんだど」って言ったにもかかわらず、勘違いして郡山で下りた。何だ、何だっつって。

今度浪江の妹夫婦、「じゃ、俺やっから」なんて先頭を預けたら、今度は下り線さ乗っちゃった。郡山の次、本宮になったのよ。

高速で車を停めて妹が降りて走って、道路標識を確認してたら国土交通省の黄色い車来たのよ。「どうしたんですか」とかって誘導されて、次の出口で出て、「また上がってください」なんて。

今度、そこから先は俺たちがトップになったっけか。で、黒磯で下りたのよ。そんでこの人（美智子さん）運転で、俺は後ろでばあちゃん糖尿病だから、たまに適当に何かかせて（食わせて）なっていうのを、忘れてかせねかったの。そうしたら、ばあちゃん死んだような状態になってるっけ、ぐたーってなってた。危ないとこ。黒磯下りたところに右折したらコンビニあって、そこが待ち合わせの場所だったの。こ

の人がすぐに菓子パン買ってかせたっけ、またぴんぴんに戻った。（笑）
　そんで 3 時間で行くとこ、6 時間半かかって行ったの。珍道中。散々だった。

★那須での避難生活

ーじゃあ、那須に 8 人で行って。
谷地：で、近所に、別荘地の入り口に 1 軒立派なおうちがあって、そこに「今度、南相馬から避難してきた谷地といいます」って。「いろいろお世話になりたいので、よろしくお願いします」って言った。そこの旦那さんが中学校の先生、校長先生、長くやった人。奥さんが、那須町の民生委員をやってた。それですぐに布団 4 組だか 5 組ぼんと持ってきてくれて、いろんな野菜とかもたくさん持ってきてくれて、「部落の中に入ってごみ捨て場を利用したいので、部落の会費とか、あとここの組の会費とか払いますのでよろしくお願いします」って言ったら、じゃあって、みんなに相談してくれて、いいってなって。
　那須の新聞販売店に行って、（福島）民報を取りたいっていったら、別荘地まで配達できないけど、入り口の所にある W さんまでは毎朝行ってるから、そこまで取りに来てって言われて、歩いて毎朝取りに行ってた。で、その W さんが今でも…先週の 19 日だっけか。
美智子さん：うん？　20 日。
谷地：20 日にカツオとサンマ持って行ってきたの。今でも交流してて。

ー今でも交流が続いているんですね。那須の別荘にいつぐらいまでおられたんですか。
谷地：6 月 10 日。母はいつもは特老に入ってて、周りに家族いないわけ。那須の別荘地に行ったら、きょうだい、息子、娘は全員いる、嫁もいるしで、昼と夜をとっちがったのよ。
　昼間、俺たちが活動してる時に母が寝てて、夜に騒ぐのよ。腹減った。で、名前呼ばれるから、「茂一（谷地さん）、俺腹減ったな」、夜中の 2 時頃始まった。「何か持ってきて、かせろ（食わせろ）」。で、妻と妹たちも起きていって。俺に「おむすびかせろ」って。食べてすぐにまた腹減ったって騒ぎ始めた。言うこと聞いてくれる人いるから、甘えが出るの。
　寝てる間に母が騒ぐから、妹たちがまいってしまって、「兄貴、悪いけど、ばあちゃんのこと鹿島さ送っていってくれ」って。4 月 1 日に原町の友達の家に来た時に、「仮設の入居申し込みをゆめはっとでやってるから、そこで申し込んできたら」って言われて、申し込んだ。
　5 月の末に南相馬市から連絡来て、「角川原（南相馬市鹿島区）の仮設（応急仮設住宅）に入居できますからご覧になってください」って。「ここいいな」ってなって。で、その時一緒にいた俺の妹と私たちの 3 人で 6 月 10 日に角川原の仮設に来ました。
　車で 3 分の所に加藤さんが居て、加藤さんが前に使ってた事務所今空いてるから、「（谷地さんの）商売上のいろんなもの、ここさに置いたらいいべ」って言ってもらって。で、冷凍のキャンディーボックス 1 つ買って、そこに冷凍品を入れておいて使わせてもらったの。5 年 4 カ月使わせてもらって、いいように使わせてもらってた。助かった。本当にありがたかった。
　そうしたら、そこに行くたびに「いつ再開するの。早く移動販売やれ。いつやるんだ」って毎日言われて切なくて。で、7 月 7 日に保健所の許可もらって始まったの。だから 6 月 10 日から 7 月 7 日まで、あらかた 1 カ月遊んだけど。

ーなるほど、そうだったんですね。

４．移動販売

★移動販売開始

谷地：で、今度、移動販売始まりました。俺、さっきも言ったけど内気で、初めての人のとこさ行かないのよ、はずかしくて。で、借り上げと仮設にいる俺の知ってる人の家だけを回って歩いたの。その車の後ろに「小高の谷地魚店」って書いたの。

原町にも（同名の）谷地魚店あって、そこはドンコのたたきとか、アンコウのともあえとかいろんなものやってて、それが評判よかったのよ。で、谷地魚店だけだと、みんなに停められるのよ。そんで（原町の谷地魚店と勘違いされて）「ドンコのたたきねえか」とか、「アンコウのとか、天ぷらねえか、煮魚ねえか」っていうし、そんなんやってらんねえよ、仮設で。で、「小高の」って入れてもらったの。小高の谷地魚店っていえば停められないから。ドンコのたたきおらい（うちの店）ではやってねえって。

ところが、小高の人で仮設（住宅）に入った人たちに停められる。で、小高を出て、いろんな所を転々してきて仮設に来るまでの自分の苦労話、ここさ（胸に手を当てて）残ってるわけよ。それを言いたいの。小高以外の人に言ったって、自分自身を分かってくれない人だと分からねえべ。

いろいろたくさんの人から聞いた中の、関東地方に行った人の話なんだけど、最初は「ご苦労さんでした、大変でしたね」って、同じマンションの人、泣きながら慰めたりしてくれたんだけど、ある時から福島ナンバーから 3 台くらいずつ離して車止め始まったの。あの人危ないから、車汚れてるからって。

ー放射性物質がついてるんだっていうことですかね。

谷地：行ったばっかりのころは、ハグしてくれたり、ほれ、大変だったでしょうとかって涙ながらに話聞いてくれた人が、突然、挨拶までもしなくなったと。でも、こっちが挨拶してるうちに、また普通に戻ってくれて、小高の友達より親しくなった人もたくさんいるって。つらさを乗り越えて笑顔で話してくれました。

ーなるほど、みなさんいろいろ経験なさってたから、そのお話を仮設で谷地さんになさるんですね。

★移動販売のお魚

ー移動販売のお魚は、どちらから仕入れてたんですか。

谷地：仕入先は、俺は相馬の魚市場。相馬総合卸売市場っていうのかな。そこからずっと買ってます。

ーそうなんですね。

谷地：でも、震災前は浪江にあった浪江魚市場と、小高の駅前に鈴木商店っていう仲卸のお店があって。

そこの 2 軒からだけしか仕入れてなかったの。相馬魚市場からは、全く仕入れてなかった。でも（仮設住宅があった）鹿島は相馬の隣だから、相馬の魚市場に行って、「こんなことで魚屋始まるのでお願いします」って、その仲卸の三協水産と丸大相馬水産、そこにお願いしますって言ったの。

毎日お客さん大したいねえのに結構売れるのよ、売れるのは。でも、この年（移動販売を始めた 2011 年）は全日赤字。毎日が赤字。っていうのは、お客さんが少なかったことと、車改造したから。手を洗う所が必要だったから。

ー軽トラですね。

谷地：軽トラに手洗いのところと、あと虫が直接入らないようにドアを、ガラス戸をつけてくださいっていうのが保健所からの通達だから、その工事費が 30 万だか 40 万かかったのよ。それがずっとペイできなかった。で、次の年（2012 年）の 1 月から黒字になった。

★移動販売で感じた喜び

ー移動販売は、最初からしようと思って帰ってきたわけでもなかったんですか。

谷地：いや、やる気満々。

三上君（三上魚店、小高の別の魚屋さん）は鹿島にあった仮設の商店街でやってたの。俺は、店は設置する予定なかったの。移動販売しかねえって。

移動販売、しゃべれっからな。そして、自分ちの知ってる人とか友達の家とか歩いてるうちに、仮設の中で「おらい（私のところ）にも回って、谷地さん、何か買いたいから回って」っていう人とか、しゃべりたい人。俺、しゃべるの好きだから。

で、3 年くらいたった時、下ネタでいきなり笑わせた後に、ばあちゃんが、「谷地さん、この 3 年、震災で父ちゃん津波で死んでから、3 年間 1 回も笑えなかった。今日、谷地さんのこの下ネタで笑って。笑うっていいもんだな」って。で、俺が魚売りに行くたびに、俺の顔、笑顔で待ってるの、ばあちゃん。笑顔いいなっていって。そうしたらそこの若い人たち、そばの仮設にいて、「ばあちゃん、笑うようになった」っつったって。「谷地さん、面白くて笑うようになった」って言って。

ーうれしいですね。もともと震災前からのお客さんもいれば、真新しいお客さんも。

谷地：たくさんいっぺ。で、今でも付き合ってもらって、買ってもらってる。

仮設の時、仮設の中でも皆さん、刺し身 1,000 円とか、あとは「アンコウのともあえうまかったから、またつくってよこして」とかって言う人もいるし、その人たちは今でも店に来てもらってる。

★風評被害

ー移動販売を始められて、震災直後で、魚を売る時に風評被害はありましたか。

谷地：風評被害は、ここにいてはそんなことは気にしないよな、多分。だってここの魚は、セシウムのあるものは市場に出ないから、まず。もう海で（検査）してるから、検査して（基準値を超える値が）出たものは捨てるし、ここの市場には出てこないし、新聞でいちいち報告するから。ただ、（市場ではなく海

で）釣ってくる人は（いるけどね）。セシウムは肥料になるのよ。

ー肥料？

谷地：肥料。だからここら辺でカリンとかユズとかマルメロとか、木になる果物は大きくなってた。震災の後の次の年辺りから。あと赤い花は余計赤く。バラでも、彼岸花でも。彼岸花は赤いよ。だけどもっと赤い。赤みが強かったの。で、それを東電の人に言ったら、セシウムはカリウムだからって言った人と、それは関係ないって言う人がいたけど、セシウムはやっぱり肥料なんだって。赤い花はうんと赤くなっているわけだって言ってる人いた。それは東電の人は知ってるけど、俺たちは一般に知らない。ただ、今年のマルメロ大きいなとか、何だかカリン大きいなとかっては言ってたと。

あと何だっけか。震災の風評被害は、ほら、マスコミでちゃんと言ってくれたし。ここの人は、だって空気毎日吸ってるんだもの。最初は気にしたよ、それぞれ。だけどそのうちどうでもよくなるのよ。ここにいるんだから、ズブズブで。

★震災後の店の解体

ー鹿島で移動販売をなさっている間、小高のお店は。

谷地：震災の後、魚屋をやるつもりでここに帰ってきて、（2016 年の小高区避難指示）解除と同時に開店して魚屋を始めるつもりでいました。それで、この（店の）解体の申請を環境省の原町事務所に行ったら、「谷地さんは申請が遅いから、2～3 年後ですよ」って言われたの。いつ行っても同じこと言われたの、1 人の女の人（職員）にね。それで、それをマスコミの人がインタビューに来た時に、ずっと同じこと言ってた。

そしたらある時、内閣府の役人が 2 人来たの。で、「いろいろインタビューいいですか」って言われて、この家はネズミ出るから駄目だからって、小高のふれあい広場借りて、2 時間か 3 時間しゃべって、一番最後に「小高に帰ってくるために何かリスクありますか」って言われて、「実はこういうわけで環境省の原町事務所に行って。早く帰ってきたいんですけど、俺としては」って。でも、ほれ、「（女性の職員に）順番だから駄目だってずっと言われてて、2～3 年後じゃねえと駄目だよって言われてっから、そこのとこちょっと諦めかけてるんです」って言ったの。

そしたら「この問題は私たち 2 人に任せてください」って言われて。したら 1 週間後に環境省の福島事務所から電話来て、「原町の一件は終わりましたから解体準備入ってください」って。そして今度大工さんに言ったっけ、「今、新築仕事でいっぱいだからできねえ」って言われた。「じゃ、別な大工さん頼むから」って言ったのよ。「俺も早くやりたいから」っつったっけ、「じゃ、今取り掛かった工事を後回しにして、谷地さん先にする」って。で、今度、家の中片付けて、東電さんに頼んだの、片付け。

ここにあるこの冷蔵庫に魚置いたまんま逃げたから、4 年間この中で腐ってて、もうとろけて、魚が。で、腐敗臭で、その前の年、俺ここ片付け始まったんだけど、げーっとなって、涙ぼろぼろ、鼻だらだらになって、こんな汚えところやってらんねえって戸閉めたのよ。東電さんにこれ、次の年任せたのよ。

皆さん朝集まって、海のほうに向かって 1 分間の黙とうしてくださって、その後俺たちのほう向いて、「このたびはすいませんでした」って全員で拝礼してくれてから片付けに取り掛かってくれた。みなさん一日中緊張した顔でやって下さって。その日は一日、次の日は半日。前の年俺が余した冷蔵庫もげーっと

なりながらキレイに片付けてくれて。ありがたかったなあ、あの時は。

ーなるほど。いつ頃のお話ですか？
谷地：解除の前の年（2015 年）。
　避難指示が解除になる年（2016 年）の 3 月 27 日、建前で、ここでみんなで投げ餅をやったり。その前に福島テレビがディレクターとカメラマンとで、小高のふれあい広場で喫茶店（ひまわりカフェ）やってたから、それに来たのよ、カメラ構えて。そうしたら、たまたまこの人（美智子さん）がその日、ひまわりカフェの当番やってた。
　で、この人としゃべってるうちに、「3 月 27 日に建前やるんだ」っつったら、「建前って何ですか」ってなって。今もここさ、福島テレビから頂いた DVD あるから、良かったら見てもいいけど、45 分間。で、福島テレビで（谷地さんの）ドキュメンタリー1 本つくって、その年の FNS ってフジテレビ系のドキュメンタリー大賞候補でつくって、大賞いただいたって。いろいろあって、福島テレビさん、ここに 10 回ぐらい来てるな。そのドキュメンタリー大賞を 1 本のフィルムつくって、DVD。
（編集註：インタビューの休憩時間にドキュメンタリーを見せて頂きました）

５．小高で営業再開

★小高の店舗での営業再開

ー小高のお店はいつ営業再開されたのですか？
谷地：（2016 年の）7 月 12 日は火入れ式の日で、その時まだ店出来上がってなかったの。だから解除の日は小高に帰ってきただけで、7 月 15 日が開店の日。

ーお店を再開されたときに一番苦労したこと、大変だったことや、再開する上での障害はありましたか？
谷地：残念ながら何もない。

ーそうなんですね。開店の日の状況はどんな感じでしたか。
谷地：開店の日は一応張り切って仕入れたの。で、（来るお客さんが）2～3 人、5～6 人と思ったんだけど、120 人。1 日終わって、レジにぽんと現計っていうところ押したら、レジナンバーが 101 だか 102。120 人っていうのは、そこの駐車場いっぱいになってて、帰っていった人結構いたの。で、お客さんどんどん来て、上がってここで待ってた人は、3 時間待たせられて怒った人いるの。ここ建てた大工さんで、「身内のような人だからいいから」っつって放っておいたの、ずっと。「まだか、俺のは」って何回も言われたけれども、やんねえでいたのよ。（そしたら）「3 時間なるんですけど」って怒られて。で、すぐ（魚を）切って帰してやったの。

ーその間、谷地さんは刺身をずっと切っていたんですか。
谷地：うん、俺は切りっぱなし。でも、息子が開店の日の午後から来てくれた、東京から。で、俺はおろ

し方、午前中はおろし方も切り方も俺だったんですけど、開店の日の午後からは息子が切ってくれて。うまいのよ、板前だから。だけど無駄も多いのよ。（刺身の）端、端捨てるのよ。もったいない。だから仕事はきれいなんだけど、無駄も多い。でも、次の日の午前中まで手伝ってくれたことで、うんと助かった。すごいお客さんだったんだ。2 日目は 60 人で、3 日目が 30 人。開店の日は紅白の餅渡して、それで。だからこの（3 日目の）30 人が今もそのまま（常連客になっている）。

★お店経営の工夫

ー小高で営業を再開なさっていて、感じることはありますか。
谷地：寒い日は暇です、今も。

ー刺し身や、ニーズに応えて焼き物とか、煮物とか、天ぷらとかもやっておられると伺ったんですが。
谷地：毎週木曜日、今のところは 5 世帯なんですけど、大体 18 人分だな。エビフライ揚げたり。こっちの都合でね。だから先週は、サンマの 1 匹姿焼き。この前は刺し身。あとホンダガレイの薄塩焼きとか、銀タラのみりん漬けを焼いたのとか、そういうこっちの勝手で。
　お総菜でやってるのは、アンコウのともあえっつって 9 月から 6 月まで。アンコウある時期だけ。

ーアンコウのともあえって、どう作るんですか。
谷地：一番最初やることは、切り干し大根を水に入れて戻します。一晩置きます。で、完全に切り干し大根の中に水が通ったら、鍋の中から切り干し大根だけをざるにあけて、その切り干し大根の戻し汁でアンコウを茹でます。茹でたアンコウを身と骨とにほぐして、骨は捨てます。身は一口大に切ります。今度、切り干し大根の水分を、元はこうやってた（絞ってた）んですけど、今は手痛くてできなくて。洗濯機 1 個買って、切り干し大根の脱水用に。それだけ（切り干し大根専用）で、もう余計なものは入れない。汚くなるから。雑菌増えるから。で、切り干し大根の、脱水終わったらば、ちゃんときれいに洗って乾かして。
　次に鍋に最初、油を少し入れて、アンコウの肝を炒めて溶かして油状にします。完全に油状になったら、そこに味噌と、うちでは赤砂糖を入れて、たれをつくった後にそこにアンコウと、切り干し大根を入れて、ヘラであえます。それがアンコウのともあえです。
　ところが、相馬は切り干し入らないのよ。どうも俺はうまくねえだな。うまいマズイはベロのちがいだから…。

★素敵な二人三脚

ー確かにそうですよね。あんこうのともあえって谷地さんがつくられるんですか？
谷地：女房は茹でたアンコウを骨からはがす時だけ、気分のいい時だけ手伝う。あとタラのフライ。塩タラ仕入れてきて、切り身にして、それで切り身に切るのは俺。粉絡んだり、揚げるのは妻の仕事。あと、木曜の夜の揚げ物、煮物、焼き物は妻がやって。だからそれをやると、刺し身のほうさ手伝いに来ねえのよ。そうすると、俺てんてこ舞いになる。だからなるべく刺し身にしてる。女房と俺とで、注文を受ける

のは 2 人で受けて、俺は切り方だけ。女房は包んでお代金頂いて…。
　女房のいいところは、人の顔覚えてるのよ。名前も顔も覚えててくれるから、だから助かって。「この人、誰だっけな」っていうお客さんが来ても、女房が、「あら、しばらく」なんて言って、覚えてくれてっから助かる

ー素敵な二人三脚ですね。

★漁業関係の問題

ー漁業関係で、問題だと感じておられることはありますか？
谷地：海水温が上がってることでアニサキス多いの。震災前の時は、こんなにヒラメ（にアニサキスは）いなかったんですけど、震災の後、地球の温暖化で海水温が上がったことで。アニサキスってクジラのふんから出るの。クジラのふんの中にアニサキスがいるの。で、海中に出るでしょう。その辺回遊してる時に魚が食して、魚の口から臓物に入って、どうしても海の水が温かいというので、魚の中の冷たいところに入っていくんだ。だから日にちが経てば経つほど中に入っていって、ヒラメは口から入って臓物に入るから、（アニサキスは）腹のほうにいる。で、ヒラメは海底に接してるほうが皮が白くて、海面に接してるほうが皮が黒いのよ。その中でも背のほうと腹のほうがあって、はらわたのほうは俺たちは腹っていうのよ。
　だから下身の腹と上身の腹と背に分けて、中骨と合わせて 5 枚を下ろすってなるわけ。で、腹のほうの下身と上身の身質にも（アニサキスが）入ってて。ある人がこの間言っていったんだけど、5 枚に下ろして皮引いてから、こうやって電気に照らしてみると虫の形があったら、そこのところをぴっと切っちまえばいい。あとサンマ。カツオの肛門とかにいる。で、マグロにはいない。マグロにはなぜか身の中にはいないの。はらわたは獲ったらすぐ切り落とすからそれは心配ないんだけど。

ーなるほど。福島第一原発から ALPS 処理水を海洋放出することがニュースでも話題になっていますが、魚屋さんとして影響は受けましたか。
谷地：影響は今のところないです。トリチウムが水分からも魚からも出てないから、だから影響はないです。ただ放出前、俺は一貫して反対でした。っていうのは魚屋だし。海が汚れることに対しては、俺は反対だから。

ー海洋放出について反対なさってたんですね。
谷地：処理水の放出前はずっと反対してたんだけど、でも国が決めたことを東電がそれに従うわけで、IAEA もオッケーということで出したんだけど。それで今のところは、水から出てないからいいんだけど。このまま続いていって、そんで今常磐もの食うべっていって、みんな頑張ってくれてるし。全国で頑張ってて、その割に以前より魚取れなくて、それが今困ってる状況。これは全国的にね。
　俺たちは、今ここで 1 日に来てくれるお客さんには、供給できるだけの魚は入ってきてるからいいけど、先月、今 9 月でしょう。8 月は、7 月までスズキあがってたのに 8 月になったらゼロ。釣りしてる人たちも釣れねえんだって言ってるの。だから海水温が上がってるんだと思う。あと潮の流れかな。だから

これは人間の考えだけではどうもなんない。あとヒラメは大きいものどんどん取れてるの。でも、市場に入らないの。不思議なくらい漁がない。

昨日、おととい、相馬の市場にヒラメが 30 枚くらい並んでた。したっけ、俺も 1 枚仕入れてきて下ろしたっけ、売り物にならねえ。べとべとになってる。そうしたら何だっつったら、釣ってきた人が出したんだって。処理が悪くて、いいものも悪くなっちゃったの。だから返してやったの。そういうことです。だからヒラメが前よりはアニサキスが多くなりました。あとカレイが全く取れなくなりました。今月はスズキがゼロでした。でも、ここで駄目でも全国から集まってくるから。

ーなるほど。震災前と震災後でいろいろ環境が変わったと思うんですけど、その中で一番変化したことは何ですか

谷地：変化したっていうのは、さっきも言ったように仕出しやらなくなったことで体が疲れない、まず。そんでお店が 12 軒、さっきも言ったように魚屋が 6 軒と、スーパーさんが 6 軒あって 12 軒あったけど、今 2 軒しかない。小高ストアさんを入れても 3 軒。

★谷地さんの今後

ー今後の谷地魚店のご予定は。

谷地：息子がやる気でいるから、それが何年か後に。で、今、孫が中学 2 年生だから、今から中学、高校、大学行ったら 10 年後くらいになると、俺は今 75 から 85、90 ころになったら来るのかな。多分俺死んだ後に来るんでないか、あいつは。俺は 78 まで（店を）やって、その後は生きてて健康だったら遊ぶって。

ー谷地さん自身は今後したいことはありますか？

谷地：まず雲雀が原で野馬追を見たい。あと岐阜県の郡上八幡の盆踊りを見に行きたい。あと越中おわらを見たい。あと西馬音内の盆踊り見たい。京都は少し行ってるけど、冬行ったことない。震災前によく行ってたのは、学校給食の魚も出してたから、夏休み中じゃないと行けなかったので真夏の京都しか分からない。

京都に柊屋っていう（旅館があって）。本館のほうは 1 泊 4-5 万とかなんだけど、別館があるのよ。別館は、1 泊 3 万くらいかな。料理がいいのよ。ほんで女房と俺とで行って、食わねえで残してやったのは、ナマコの酢物だけで、あとは全部きれいに食うの。きれいに何も残さない。パセリも刺し身に付いてくる菊の花も全部食べる。

刺し身に付いてるパセリ、大葉、あとは菊の花、みんな薬味は解毒の作用があるの。にんにくもわさびも。で、穂紫蘇も付いてるでしょう。あれも全部頭のほうから落として、しょうゆにみんな落とす。あと、菊の花もちぎって、しょうゆに落として、刺し身を絡んで食べる。うまいよ。食べられるのは、たいがい好き。

★谷地さんと小高

―小高の魅力について教えてください。

谷地：小高は、夕方の西の景色と朝の東の景色がうんといいのよ。夕焼けとか黄昏時の景色とかね。

あとは、浜風入るから。浜風はごちそうだから。夏の暑い盛りにヒヤッとした風が入ってくる。こんないいことはない。都会では感じられないからね。浜辺にいる人たちは浜風当たり前のようにしてるけど、（谷地さんが）「浜風はごちそうだよね」って言ったら、「ごちそうって言われたの初めてだ」って言ってた。

ー浜風はごちそう、とても素敵ですね。

谷地：あと、震災以前は小高に全く縁も所縁もなかった人がこの頃、小高に移住してきてるのよ。はっきり何名かはわからないけれど。例えばお酒つくる haccoba (ハッコウバ)さん、革靴作っている人、腕時計作っている人とか、デザイン事務所を構えている人とか。

東京から移住してきて今西部地区にいるある人は、（海側で津波被害のあった）井田川に一軒だけ立って残っている家があって、リフォームしてそこに移住しますって言ってる。

ーそうなんですね。移住してきた人たちは小高どんなところを魅力に感じたんですかね。

谷地：いろんな方がたくさん移住してきて、小高は学校に上がる前のお子さんのための施設が結構整っていて、小高はいいって（言ってる）。

小高に移住することを決めた人たちに、なんで小高はいいですかって聞いたら、「いくつかの町にちょっとずつ住んでみたら、小高が一番あったかい」って。気候があったかいんじゃなくて、人の心があったかいってことが住んでわかって、ここに住んでいいなって思えるようになったって。この間、飯崎に東京から移住してきたご夫婦が、あるって（歩いて）魚買いに来たのよ。「なんで小高に」って聞いたら、「なんかここ気に入ったのって、しっくりする」って。

ただ、東京は電車も交通の便がいいから、その方は（谷地さんより）二つ年下の方なんだけど「免許返納してきちゃった」って。「小高に来て免許なかったら大変だぞ」って言ったの。飯崎から往復夫婦で歩いてきたって。都会の人は歩くの平気だから構わないんだけど、俺たちだったらとんでもねえ話だよね。

西部地区に住んだりすると駅までの交通の便がない。乗合タクシーもあっけど、それだって時間が決まってるから自分が乗りたいときに乗れない。だから免許証がないと交通の便が悪い、あればあったで老人が交通事故起こしたらもっと大変なことになるから、小高はそういうところで不便。

ー小高には不便な面もあるんですね。

谷地：小高にはお店ねえでしょ。魚屋２件と金物屋では生活的にちょっと困るから。小高ストアもあっけど。だから、小高は大きなショッピングセンターがないから、俺たち魚屋も商売できんのよ。でも 3,000 人しかいないんだもの、スーパーが来るほどでもないよね。

あとは小高は圧倒的にお医者さんが少ない。入院設備は１個もなくて、１つのベッドもないからみんな原町に行く。だから小高ではとにかくお店と入院設備のある医療機関が課題だよね。

将来の小高には、今たくさんある更地にお家が１軒でも 2 軒でも建ってくれればいいよね。設備はち

ゃんと整っているし、市の水道は地下水だから水もおいしいしね。

ーなるほど。心配なことはありますか

谷地：どこの病院でもだけど、救急車に乗って、受け入れ先の医療機関が決まるまで救急車に乗っているうちに具合が悪くなる人もいるから。それがすぐにぱっと決まんないの。

死ぬときは一瞬だから。すぐに受け入れてくれる病院が見つかるのも人生の幸せだし、運が悪ければ救急車の次は霊柩車だからな。そっちも乗せられて終わりだから。

★学生へのメッセージ

―では最後に、学生へのメッセージがあれば教えてください。

谷地：若い人たちには、漢字を覚えてほしいなあ。ここ（谷地さん宅）にきた大学生に漢字テストたまにやるんだけど、俺に勝ったの 2 人しかいない。今の子供たちって小説読まないし、新聞も読まない。なんでもスマホで済まそうとする。漢字分からない時、なんでもスマホで調べればすぐに分かる。計算も（スマホで）できるし。

―耳が痛いです…。谷地さんはどのように漢字を習得されたのですか。

谷地：俺は広辞苑 3 冊あっけど、読めない漢字があったら広辞苑で漢字をまず画数で調べる。後ろにある画数別の漢字を見つけて、ルビふってあるからそれで引き直して読めるようになる。それに意味も分かるようになる。今度その読めなかった漢字を別の紙に書いてみる。そするとここ（頭）に入っから。だからそれをあなた方はこれから先、大変な作業だけどやってみると意外と漢字って頭に入っから。

ーありがとうございます。頑張ります。

たくさん、貴重なお話を伺わせて頂きました。インタビューありがとうございました！

【学生の感想】

谷地さんはとても知識が豊富なパワフルな方で、インタビューさせていただいたときはお話を聞いている自分自身も明るい気持ちになりました。むらの大学を受講する前は被災した方が震災当時に何を感じ、現在どのような思いで過ごされているのかを全く知らず、お話を聞いていく中でたくさんの驚きがありました。実際に現地には行けないとしても、多くの方にこのインタビュー文を読んでいただき、様々な「驚き」を感じてほしいです。

行政政策学類１年　原ゆかり

谷地さんにはインタビューが初めてである私たちを、急かさず暖かい目で見守っていただきました。本当に感謝しています。私はこのインタビューをしたことで、震災以前の小高の様子や、その当時谷地さんがどのような感情のもと行動されたのかを一部ではありますが、良く理解できたと感じております。私たちが編集させていただいた全文インタビューも、出来るだけ谷地さんの口調を残し、谷地さんの人柄も感じながら読めるよう努力したので多くの方に読んで頂ければ幸いです。

行政政策学類 １年　齋藤葵

谷地さんご夫婦の明るく温かな雰囲気に、インタビュー前の不安は消え、楽しくインタビューをさせて頂くことができました。文献やメディアでは知り得ない、ひとりの魚屋さんからの視点での経験、思いなどをお聞きし、様々な思いがこみ上げてくると同時に困難な中でも前へと突き進む谷地さんの強さがとても心に焼き付いています。インタビュー内容を全く同じように残すことはできない中で、いかに谷地さんの人柄や歩みを伝えられるか試行錯誤しながら作成しました。多くの方に目を通していただき、何か感じ取ってもらえたら嬉しく思います。

食農学類１年　深澤真由

まず、今回のインタビューを快く承諾し、私たちを暖かく受け入れてくださった谷地茂一さんに心より感謝を申し上げます。今回、谷地さんのお話を伺い、震災以前から現在までの小高や谷地さんのリアルな声を聞くことが出来ました。谷地さんのお話からは、誰かを喜ばせたいという「おもてなしの心」が感じ取れます。どんな状況でも最善を尽くし誰かのために行動できる、そんな谷地さんの素敵なお人柄が見えてきました。その前進し続ける「強さ」が谷地魚店、そしてこれからの小高を引っ張って行くのだろうと感じました。このインタビュー文を多くの方から読んでいただくために我々一同、心を込めて編集いたしました。このインタビューの内容が少しでも読んでくださった皆様の心に残っていただければ幸いです。

行政政策学類１年　金田英治